SAFE COMMUNITY TSURU CITY





防犯対策委員会



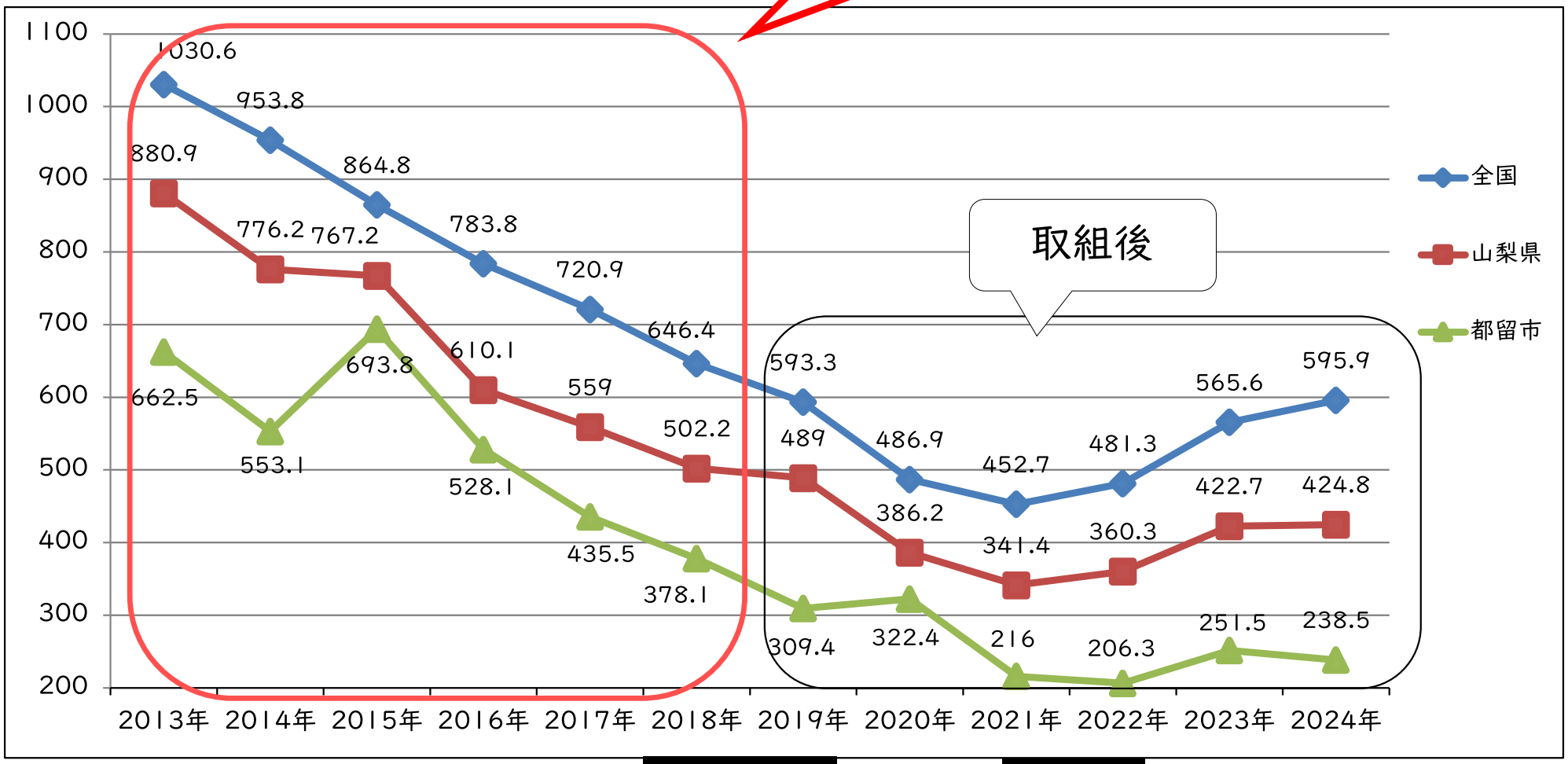


発表日　令和8年10月29日（木）
発表者　防犯対策委員会
　　委員長　野木　忠一

設置の背景1-1

人口10万人あたりの犯罪認知件数は全国や山梨県と比べて少ない。

図表1　刑法犯認知件数（人口10万人あたり）



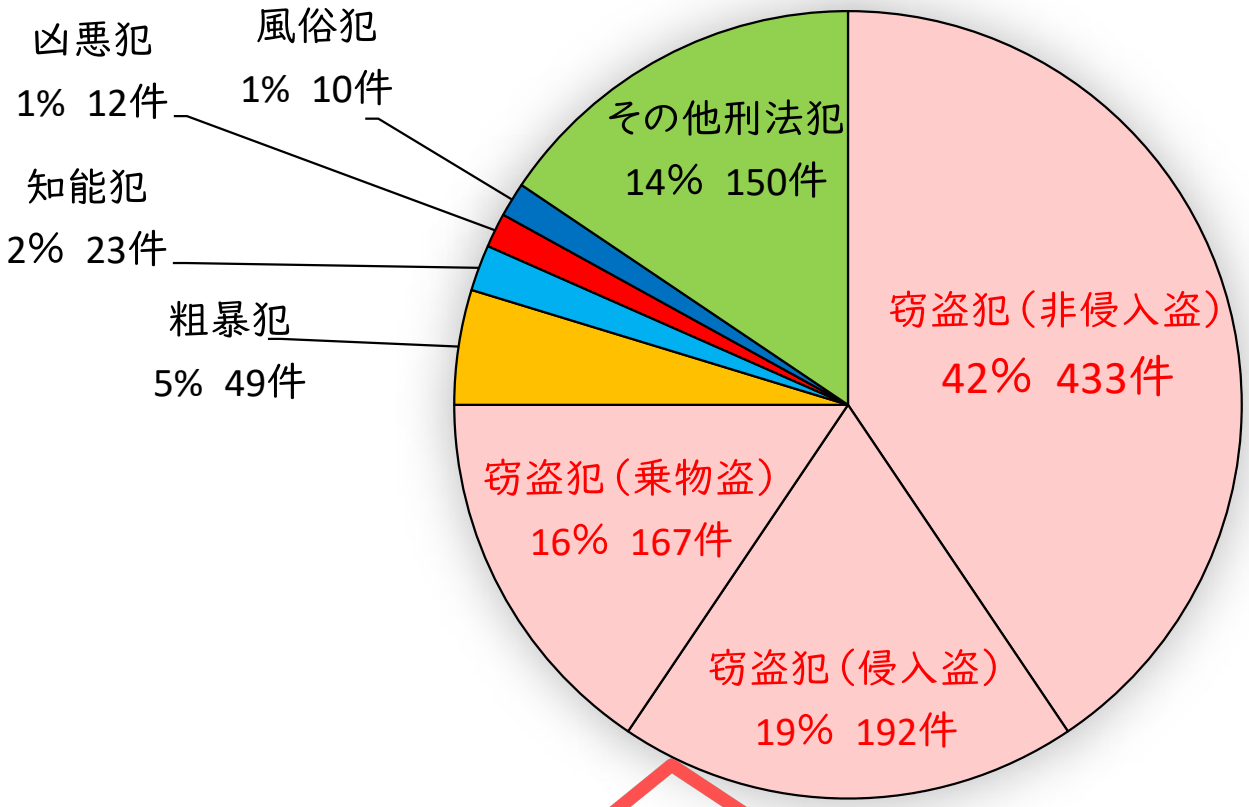
キックオフ　　認証

出典：警察犯罪統計データ（2013～2024）

設置の背景1-2

市内の犯罪種別では「窃盗犯」の発生率が高い

図表2 刑法犯罪種別割合　2013年～2018年（取組前）



n=1,036

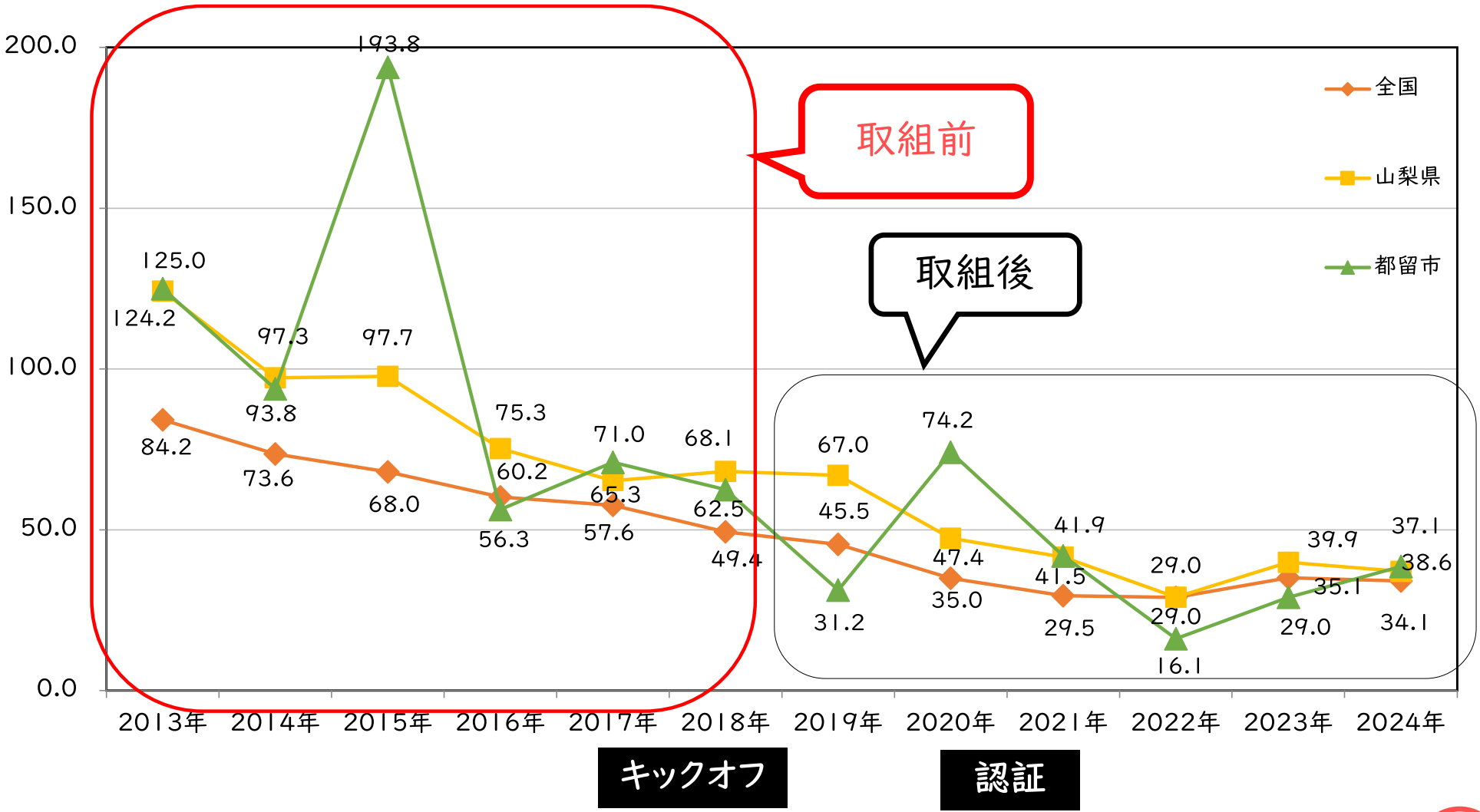
都留市での発生犯罪の70%以上が窃盗犯

出典：山梨県警察 /2013年～2018年

設置の背景1-3

窃盗犯のうち侵入盗は全国や山梨県に比べて多い。

図表3 刑法犯罪種別認知件数 窃盗犯うち侵入盗（人口10万人あたり）



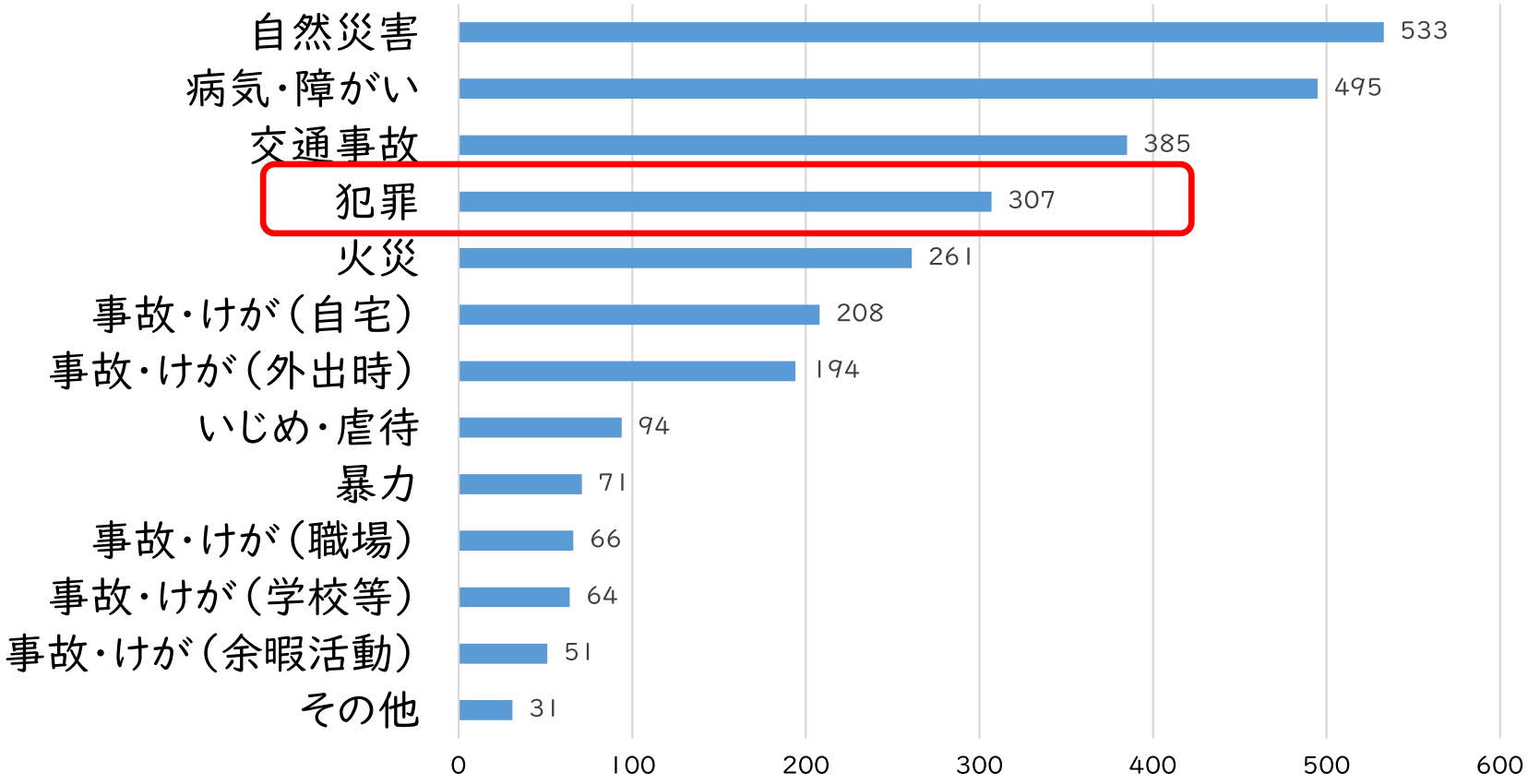
出典：警察統計データ
(警察庁)/2013~2024

設置の背景2

市民が不安に思う事柄で「犯罪被害」は上位4番目であり、市民の不安感が高い。

図表4 都留市での生活で不安を感じること

2018年(n=2760)

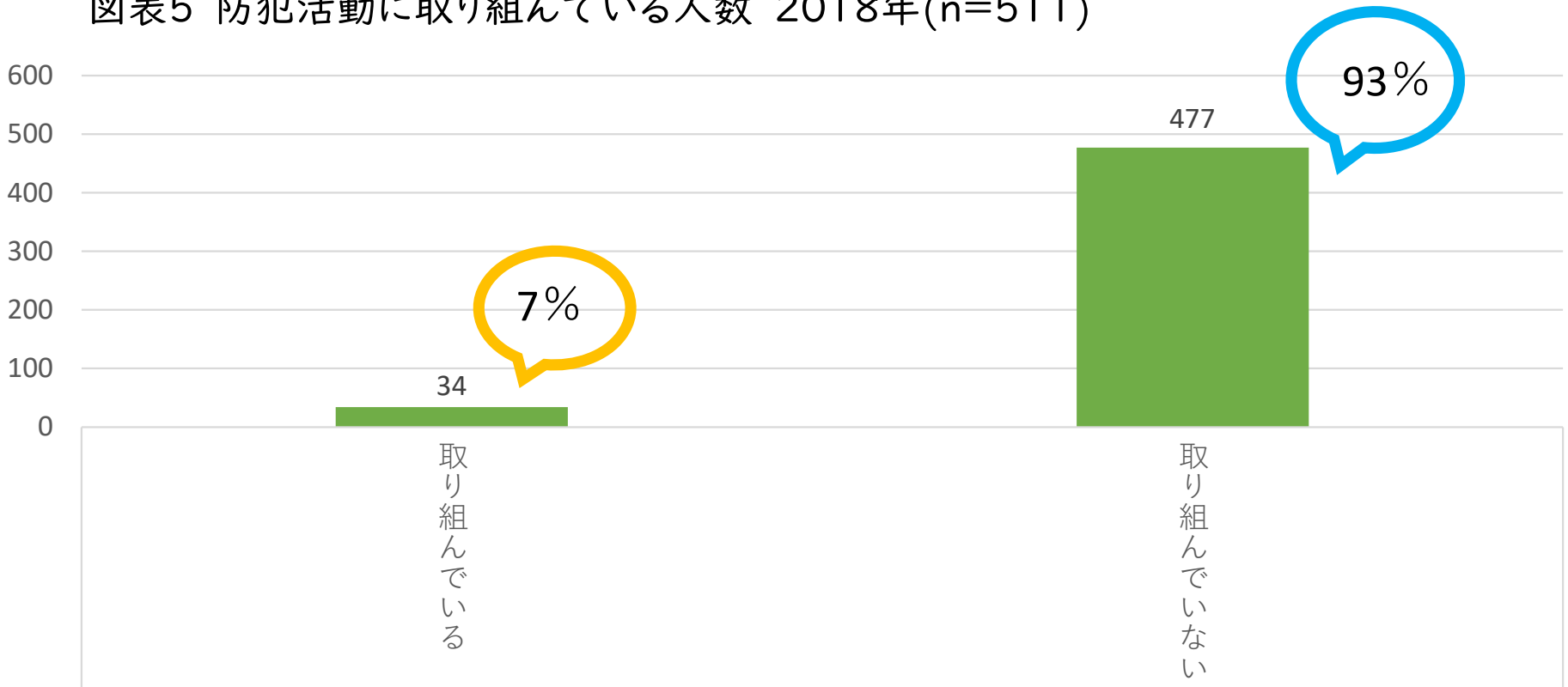


出典：安全・安心なまちづくりアンケート問20(地域環境課)/2018

設置の背景3

「犯罪被害」を不安に思う人が多い一方で、
防犯に関する取り組みを行う人が少ない

図表5 防犯活動に取り組んでいる人数 2018年(n=511)



・防犯に関する取り組みを行っている人の割合は10%未満となっている。

出典:安全・安心なまちづくりアンケート問21(地域環境課)/2018

設置の背景まとめ

・人口10万人あたりの犯罪認知件数は全国や山梨県と比べて少ないが、窃盗犯のうち侵入盗は全国や山梨県に比べて多い。（図表３）

・市民が不安に思う事柄で「犯罪被害」は上位であり、市民の不安感が高い。（図表４）

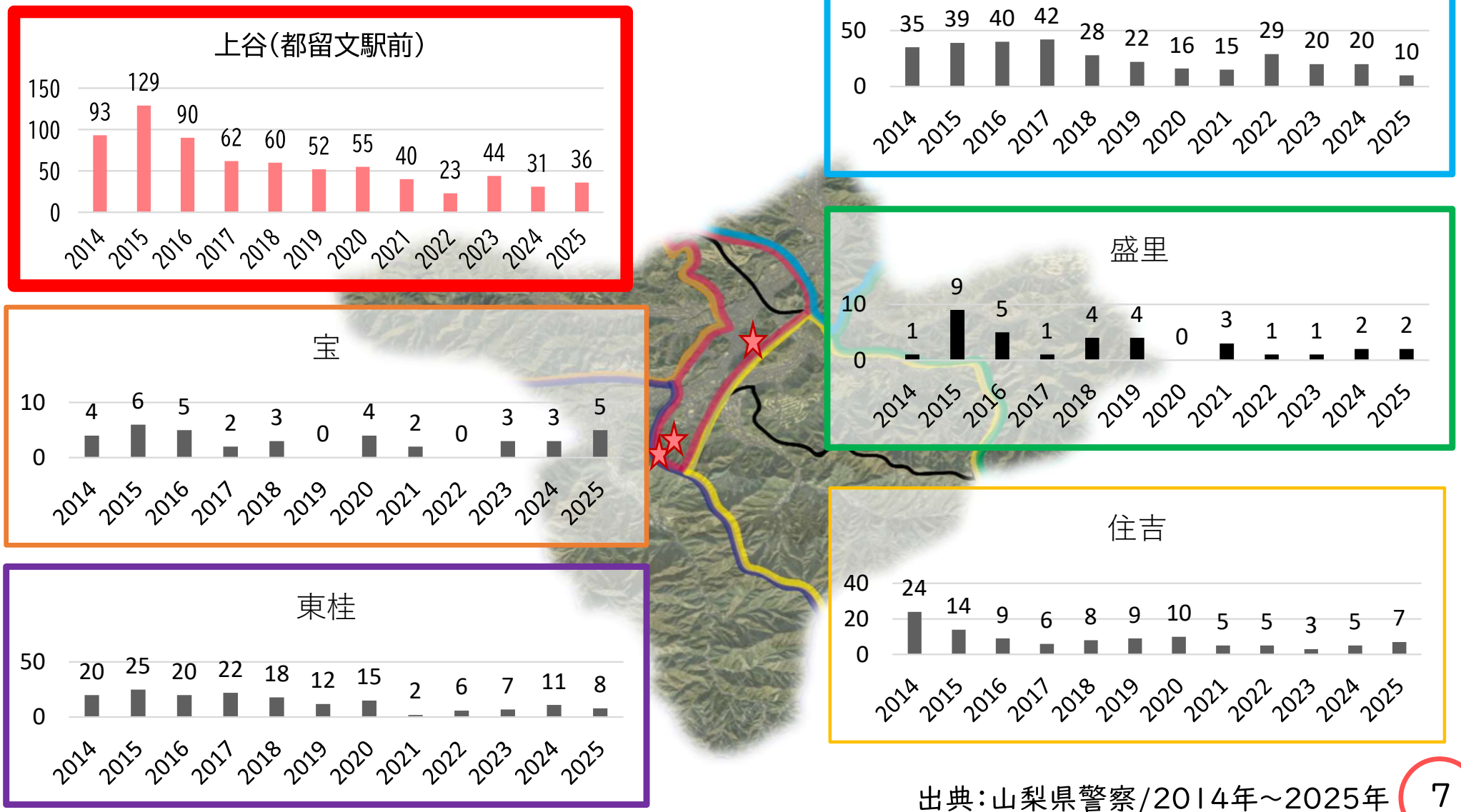
・「犯罪被害」を不安に思う人が多いが、防犯活動に関する地域活動に取り組む人が少ない。（図表５）

データに基づく問題1

・駐在所別では上谷交番管内が多い

図表6　市内駐在所別刑法犯認知件数　(2014~2025年)

☆ ⇒大学、大学校

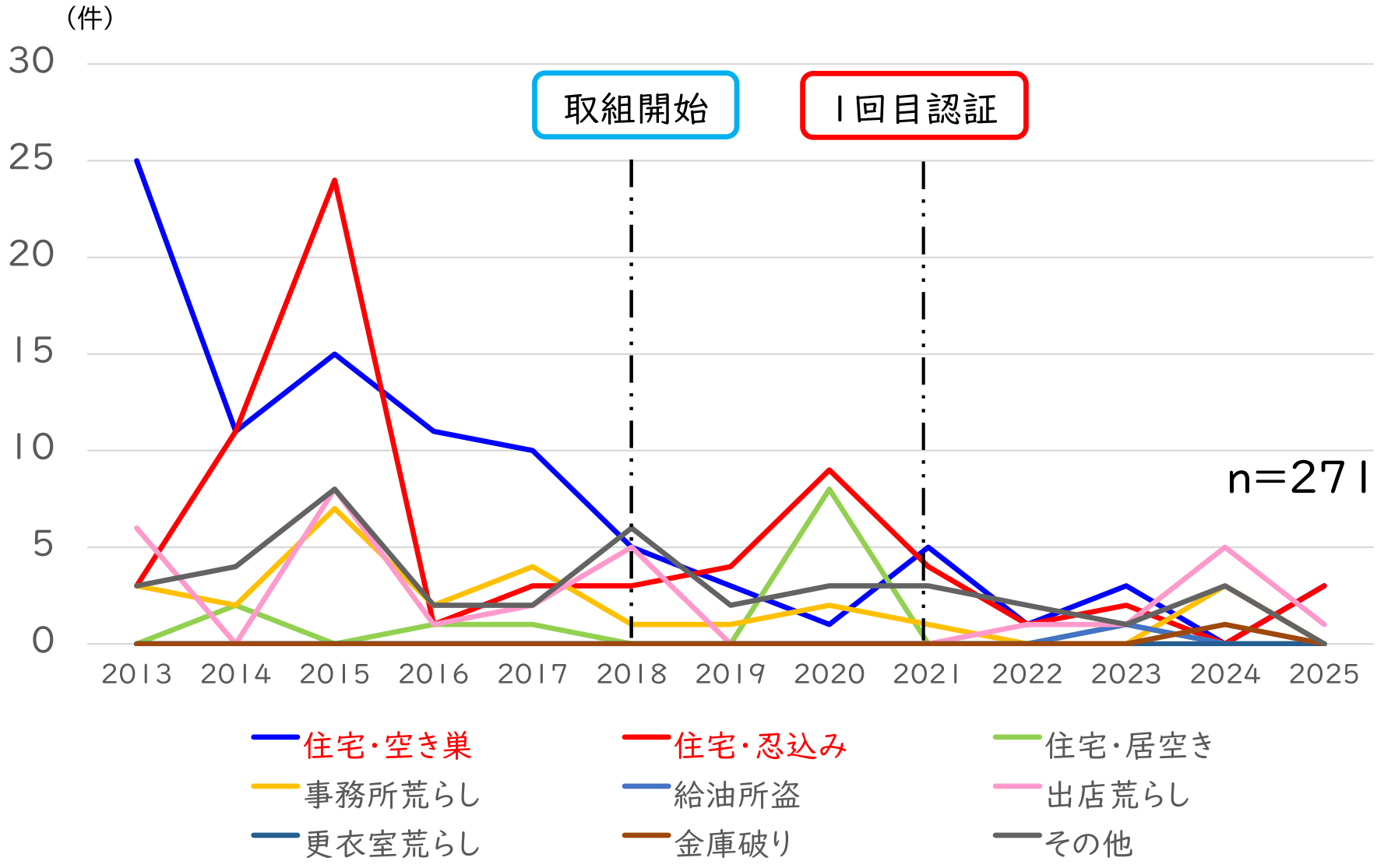


出典:山梨県警察/2014年~2025年

データに基づく問題2-1

・窃盗犯の中の「侵入盗」では「空き巣・忍び込み」が多い

図表7 侵入窃盗種類別割合　2013~2025年

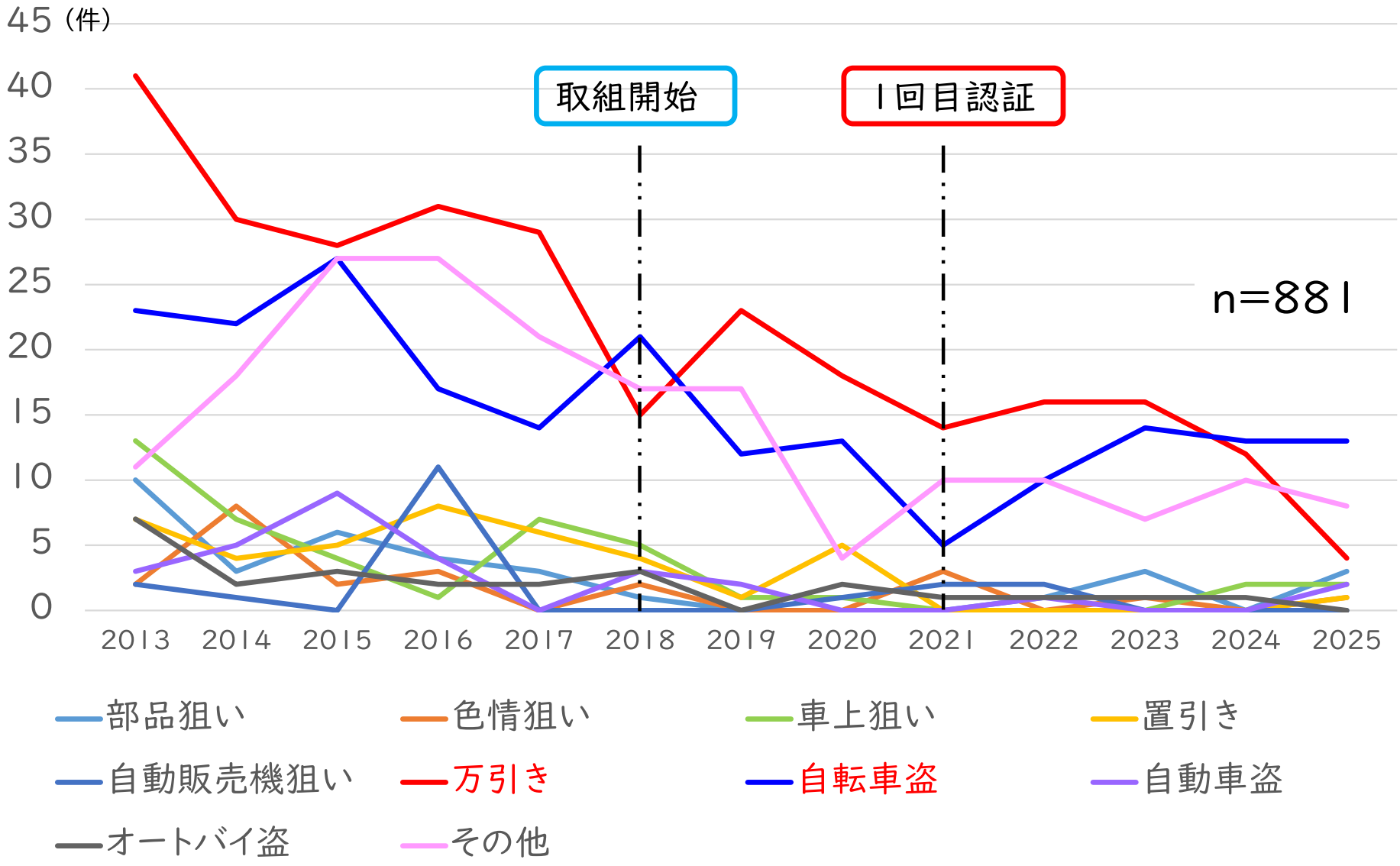


出典：山梨県警察 /2013年~2025年

データに基づく問題2-2

・非侵入盗では「自転車盗」、「万引き」が多い

図表8 非侵入窃盗種類別認知件数割合　　2013~2025年

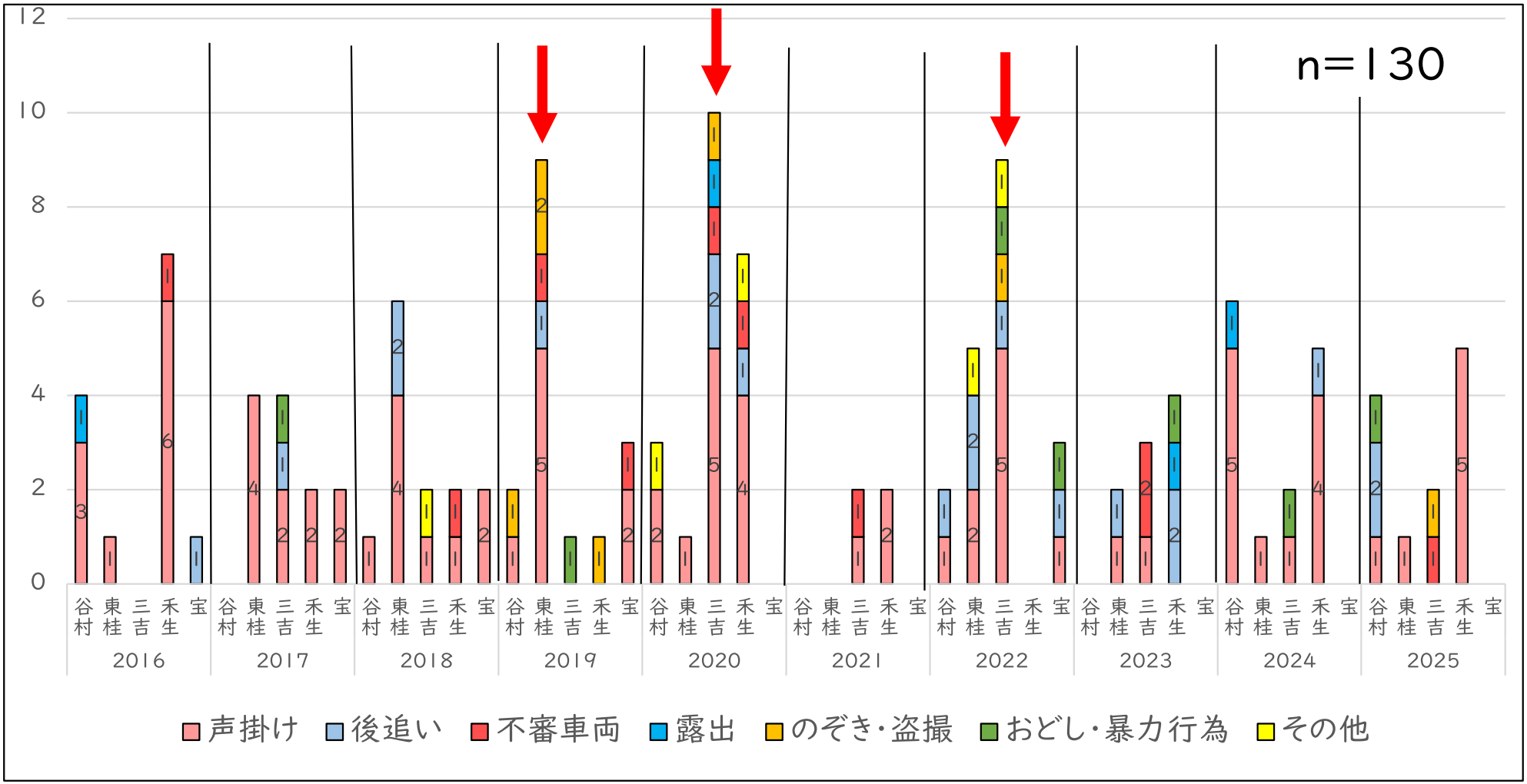


出典：山梨県警察/2013年~2025年

データに基づく問題3-1

・不審者情報が三吉地域と東桂地域で多い

図表9　教育委員会 不審者等情報通報状況(2016年4月～2026年3月)



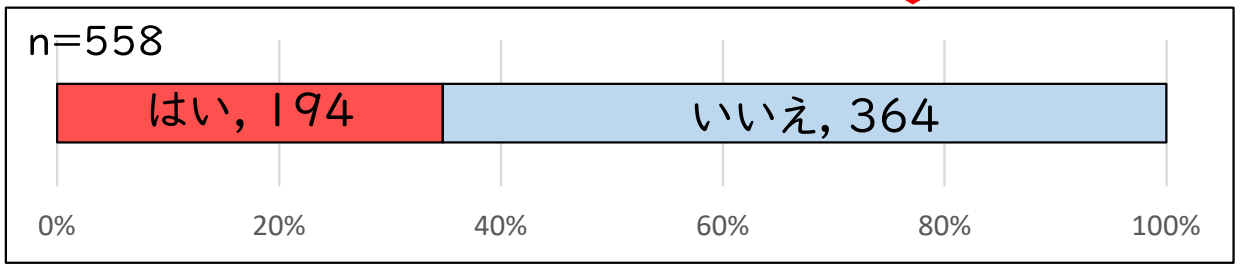
出典:都留市教育委員会 学校教育課
/2016～2025

データに基づく問題3−2

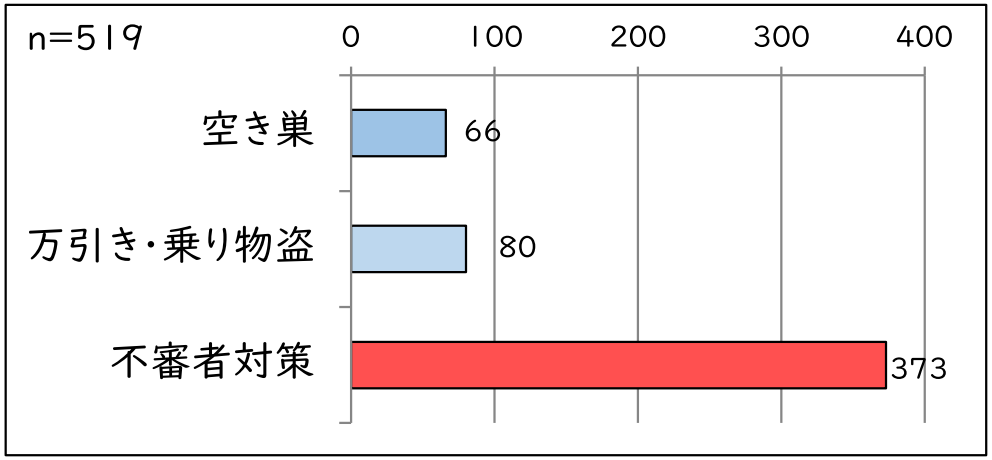
・不審者に声をかけられたことがある学生が多い(都留文科大学周辺)
・不審者対策を望んでいる学生が多い

約3割の学生が「はい」と回答

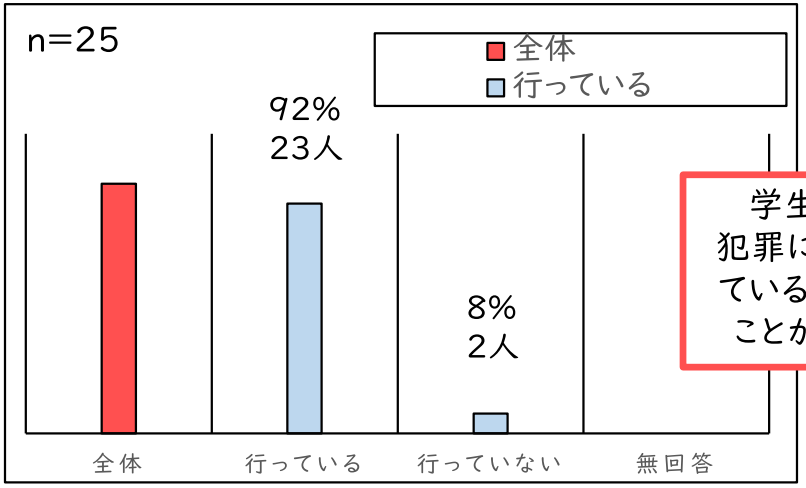
図表10
あなたはこれまでに見知らぬ人に声をかけられたことがありますか



図表11
学生の立場から、対策が重要だと考える課題は何ですか



【図表12】
学生自身で何か防犯対策を行っているか
（不審者対策以外も含む）



学生自身も犯罪に気を付けている人が多いことがわかる。

出典：図表10,図表11 都留文科大学学生自治会実施 防犯に関するアンケート/2019
図表12 防犯対策委員会アンケート調査(コミュニティカフェにて実施)/2024

データに基づく問題4

・詐欺に関する市民からの相談は横ばい、アポ電及び詐欺被害の件数は増加、詐欺被害がなくならない

図表13
消費生活相談窓口への詐欺等に関する相談件数（2015～2024年度）

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
件数	30	44	101	104	95	106	74	82	69	91

図表14
詐欺と思われるアポ電件数（2018～2024年度）

年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
件数	8	11	35	25	21	30	61

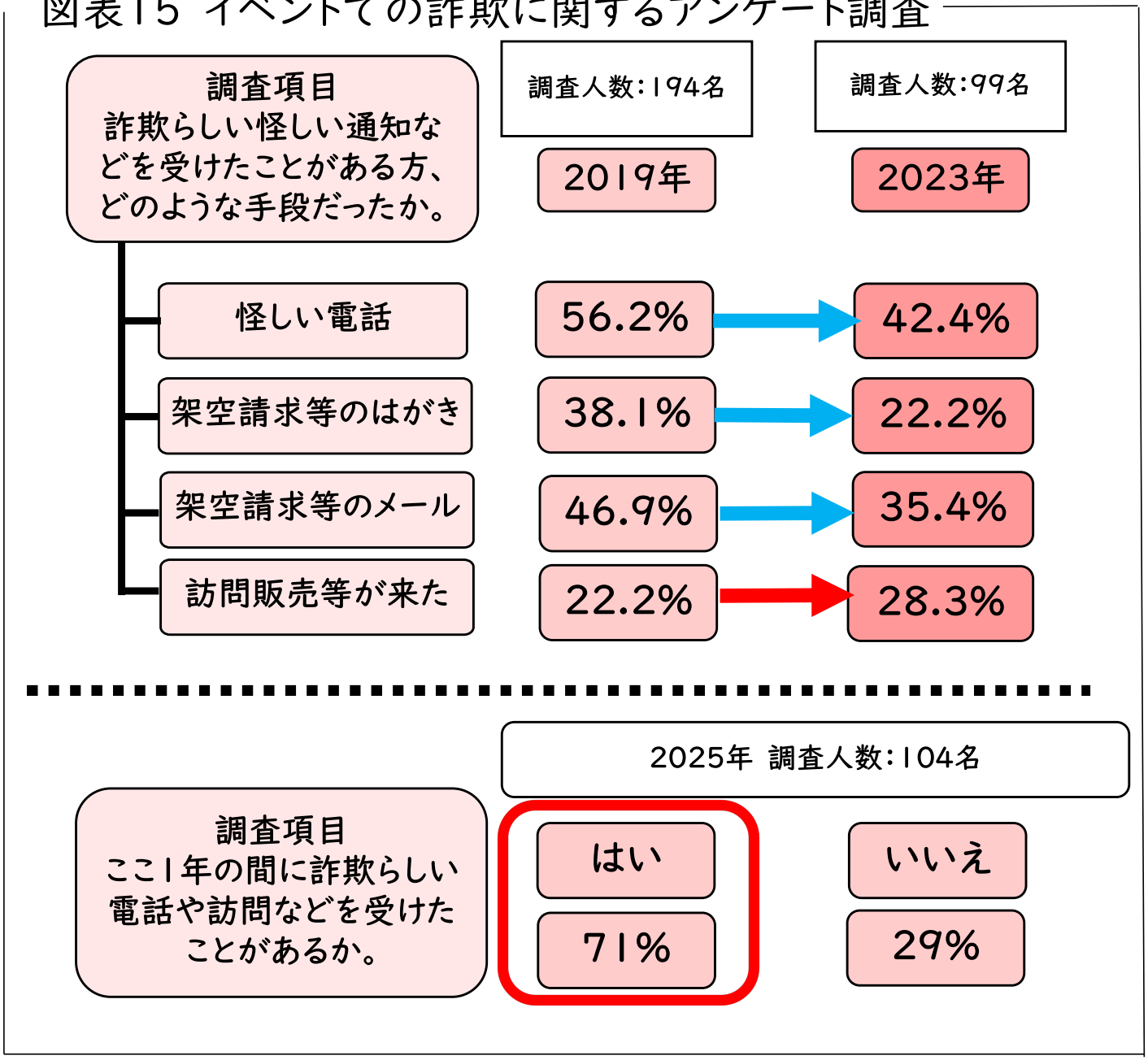
詐欺被害件数
2021年：2件
2022年：1件
2023年：7件
2024年：6件
2025年：0件

アポ電とは・・・
犯人グループが親族や警察、役所や金融機関の職員などになりすまし、犯行を行う前に家の状況や資産を把握する目的でかける電話のこと。

出典：図表13 消費生活相談窓口データ/2015～2024
図表14 山梨県警察/2018～2024

・詐欺手口が多様化しており、誰もが被害に遭うリスクが高まっている

図表15 イベントでの詐欺に関するアンケート調査



・詐欺らしい怪しい電話、はがき、メールを受けたことのある人は減少、訪問販売などは増加している。
・ここ1年の間に詐欺らしい電話や訪問をなどを受けたことのある人は7割を超えている。

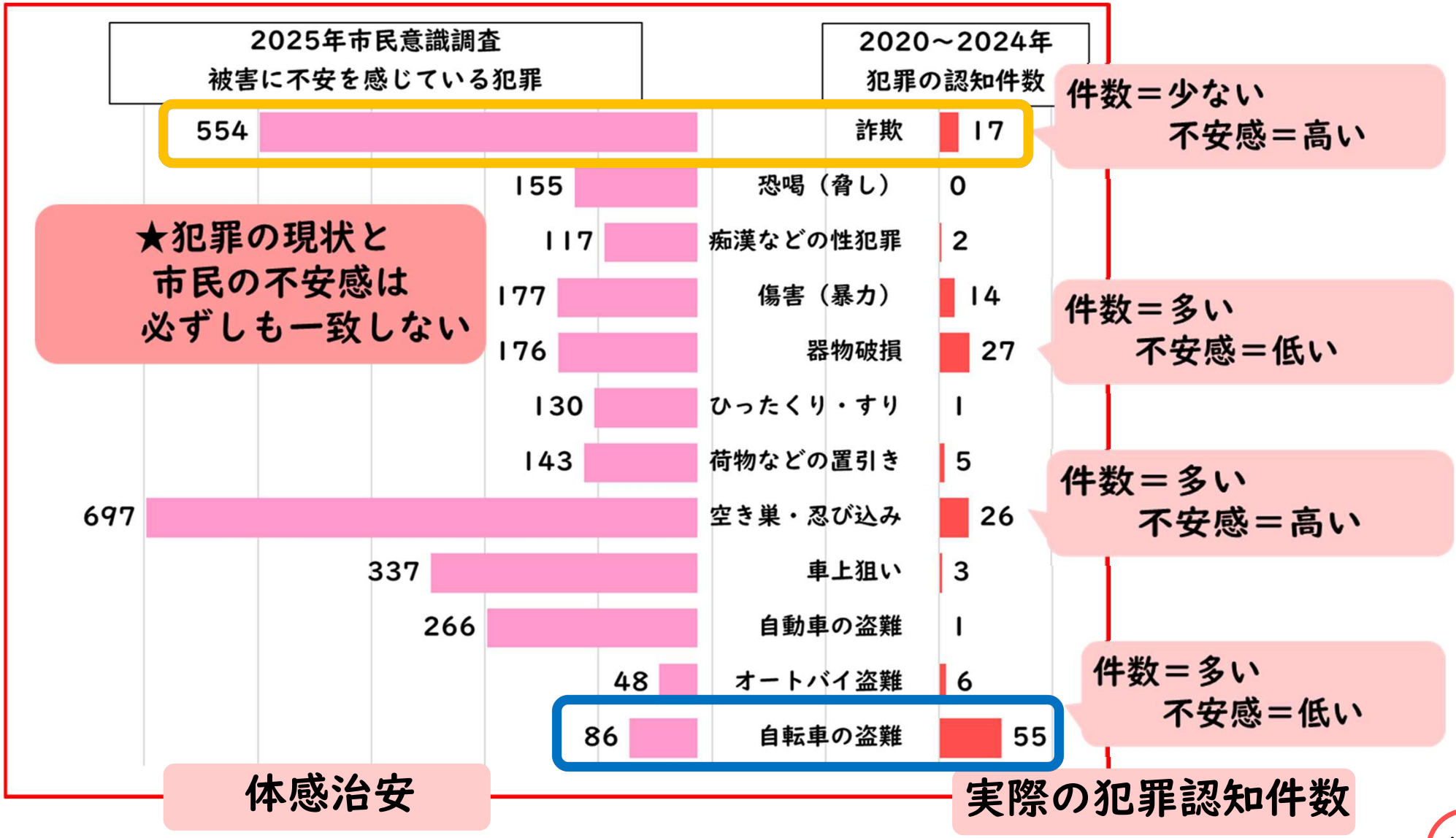
⇒詐欺の手口の多様化が読み取れる。誰もが詐欺被害にあうリスクが高まっている。

出典:防犯対策委員会アンケート調査/2019,2023,2025

データに基づく問題5

犯罪の発生状況と市民の犯罪に対する不安は一致していない

図表16 犯罪の発生状況と市民の不安感（体感治安）の相関性



出典：安全・安心なまちづくりアンケート(地域環境課)/2025

防犯対策委員会の構成

区分	団体・組織名	
住民組織 民間団体等	青色防犯パトロール隊	青少年育成都留市民会議
	都留市消防団	谷村地域協働のまちづくり推進会 （都留市のまちづくりを担う団体、自治会より大きな組織）
	リズムオブラブ （山梨県内で防犯、交通安全などの啓発に取り組んでいる団体）	都留市青少年カウンセラー
	富士急山梨ハイヤー株式会社 （公共交通事業者）	学生自治会執行委員会 （都留文科大学学生自治組織、大学組織やと地域等との調整役）
	都留市消費生活相談員	こども安全たんけん隊
行政機関	都留市小中学校校長会	大月警察署生活安全課
	都留市消防本部消防課	地域防犯推進員（地域環境課所属 防犯対策の専門員）
	市（地域環境課、福祉課、産業課） 都留文科大学（学生支援課）	

問題を解決するための課題

データに基づく問題		課題と方向性
・都留市では窃盗犯の発生が多い。	図表7.8	窃盗に対する防犯意識が低い⇒ 窃盗被害等にあわないための防犯意識の向上
・不審者被害がなくならない。	図表9	自衛についての知識の不足⇒ 不審者から身を守るための行動・知識を身につける
・アポ電と詐欺被害は年々増加。	図表13.14	詐欺に対する防犯意識、防ぐための知識の不足⇒ 詐欺被害に関する防犯意識の向上
・市民の犯罪に対する不安と実際の犯罪発生件数は必ずしも一致しない。	図表16	都留市における犯罪の実情、防犯対策に関する知識の不足⇒都留市における犯罪の実情を理解した、正しい防犯対策の実施

課題に対する取り組み

No.	課題と方向性	取り組み	ハイリスク対象
1	窃盗に対する防犯意識が低い⇒ 窃盗被害等にあわないための防犯意識の向上	①家庭や地域での防犯対策の推進	全市民
2	自衛についての知識の不足⇒ 不審者から身を守るための行動・知識を身につける	②学生の見守り強化	大学生
		③「健康・安全・郷育プログラム」の拡充	小学生以下の子どもたち
3	詐欺に対する防犯意識、防ぐための知識の不足⇒ 詐欺被害に関する防犯意識の向上	④電話詐欺防止など消費生活の安全向上	高齢者
4	都留市における犯罪の実情、防犯対策に関する知識不足⇒都留市における犯罪の実情を理解した、正しい防犯対策の実施	①家庭や地域での防犯対策の推進	全市民

問題1・4に対するレベル別対策

問題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
1. 都留市では窃盗犯の発生が多い 4. 市民の犯罪に対する不安と実際の犯罪発生件数は必ずしも一致しない	啓発 教育	◆警察パトロール ◆全国地域安全運動 ◆ふじ君安心メール ◆山梨県青少年の非行・被害防止全国強調月間 ◆再犯防止啓発月間	◆青色防犯パトロール プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進	
	環境 整備	◆山梨県再犯防止推進計画の作成 (令和2年作成)	◆都留市再犯防止推進計画の作成 (令和4年作成) ◆防犯カメラ設置補助金 ◆防犯灯設置補助金 プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進	◆防犯カメラ設置 (自治会単位) ◆防犯灯設置 (自治会単位)
	規則・ 罰則	◆刑法第235条 (窃盗罪) ◆山梨県安全・安心なまちづくり条例	◆都留市生活安全条例 ◆セーフコミュニティ認証	

環境面への取り組み

都留市防犯カメラ設置補助金

自治会から設置要望を基に、地域の犯罪抑止のため「防犯カメラ」を設置するための補助金を市で設置している。

補助対象経費

1基につき費用金額の1/2を補助

上限額　15万円

実績

	団体名	設置カメラ台数	交付額
2016年	楽山自治会	2	300,000
2021年	新井自治会	1	130,000
2022年	楽山自治会	2	294,000
2023年	蒼竜峡自治会	1	150,000
	境自治会	1	150,000
2024年	上大幡自治会	2	161,000
2025年	田原自治会 他4自治会	9	658,000
合計	のべ11団体	18	1,843,000

before



after



全国・国レベルの取り組み

地域安全安心フェスタへの参加

全国地域安全運動の一環で、大月警察署主催の啓発運動









問題2に対するレベル別対策

問題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
2. 自衛についての知識の不足	啓発教育	◆警察パトロール ◆全国地域安全運動 ◆山梨県青少年の非行・被害防止全国強調月間	◆青色防犯パトロール プログラム② 学生の見守り強化（大学生を孤立させない支援活動） プログラム③ 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充	◆スクールガードの登下校の見守り
	環境整備		◆不審者情報連絡体制の構築（警察←大学→市）（警察←小中学校→市） ◆防犯カメラ設置補助金 ◆防犯灯設置補助金	◆安全な通学路の構築（各小中学校） ◆防犯灯設置（自治会単位） ◆防犯カメラ設置（自治会単位）
	規則・罰則	◆山梨県迷惑防止条例 ◆山梨県安全・安心なまちづくり条例	◆都留市生活安全条例 ◆セーフコミュニティ認証	

問題3に対するレベル別対策

問題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
3. アポ電と詐欺被害は年々増加	啓発 教育	◆警察パトロール ◆全国地域安全運動 ◆チラシ・ポスター作成	◆消費生活相談窓口 (都留市役所　市民課) プログラム④　電話詐欺防止など消費生活の安全向上 ・出前講座での啓発活動 ・詐欺撲滅体操による周知活動	
	環境 整備	◆電話詐欺対策機器 貸出事業 (山梨県警察)	◆消費生活相談窓口の設置 (都留市役所　市民課) ◆都留市特殊詐欺被害防止 対策機器設置費補助金 プログラム④　電話詐欺防止など消費生活の安全向上 電話詐欺被害防止機器補助金の周知	
	規則・ 罰則	◆刑法第246条(詐欺) ◆山梨県安全・安心な まちづくり条例	◆都留市生活安全条例 ◆都留市特殊詐欺被害防止 対策機器設置費補助金交 付要綱	

環境面への取り組み

電話詐欺対策機器貸出事業(県レベル)

電話詐欺抑止装置の無償貸し出しを行っている。

1.貸出対象者
　県内居住のおおむね65歳以上の方
2.貸出方法
　最寄りの警察署で申請
3.貸出期間
　4ヶ月間

都留市特殊詐欺被害防止対策機器設置費補助金(市レベル)

通話の内容を自動的に録音する機能を有する電話機器購入費用の一部負担する補助金

補助対象経費
限度額:20,000円

実績

年度	2020	2021	2022	2023	2024
申請件数	199	49	39	37	37





イメージ写真



補助金周知活動の様子



プログラムの運営状況

区分	進行状況				
	2021年 認証	2022年	2023年	2024年	2025年 事前指導
プログラム（1） 防犯カメラの設置促進				プログラム（4）と統合	
プログラム（2） 「学生見守りの家」による見守り活動				活動名変更 プログラム②へ	
プログラム（3） 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充				継 続 プログラム③へ	
プログラム（4） 防犯対策の周知				プログラム（1）と併せてプログラム①へ	
プログラム（5） 電話詐欺防止など消費生活の安全向上				継 続 プログラム④へ	
プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進		NEW!		開 始	
プログラム② 学生の見守り強化 （大学生を孤立させない支援活動）		NEW!		開 始	
プログラム③ 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充					
プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上					

プログラム①　家庭や地域での防犯対策の推進

課題	都留市における犯罪の実情を理解した、正しい防犯対策の実施		
目標	年間窃盗罪認知件数の減少及び犯罪に対する市民の体感治安の向上		
内容等	関係機関と連携を取りながら、窃盗被害等防止のための啓発活動の展開		
	【対象】	全年齢層の市民	
	【人材】	山梨県警察、青色防犯パトロール、都留市など	
区分	指標【方向性】		測定方法
（短期） 認識や知識の変化	都留市の犯罪状況を知っている人の割合		・アンケート
（中期） 態度や行動の変化	防犯対策を行っている人の割合 防犯カメラの設置実績		・アンケート ・市民意識調査
（長期） 状態や状況の変化	・窃盗罪認知件数 ・窃盗罪に対する体感治安 （不安感の減少）		・山梨県警察犯罪統計 ・市民意識調査

プログラム①活動内容

■出前講座や各種イベントでの啓発活動

　出前講座で寸劇を用いて空き巣・忍び込みの対策、詐欺の防止などについて発表したり、イベントで防犯グッズを配布しながら啓発活動、アンケート調査を行っている。

●出前講座の様子●



●イベントでの啓発活動の様子●







プログラム①の評価

	年	2018 (SC開始)	2021 認証	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	**活動の実施回数 啓発物品等の配布数**	・出前講座5回 145人	・出前講座2回 29人 ・啓発物品 100部配布 ・チラシ700部配布	・出前講座1回 16人 ・チラシ400部配布	・ふれあい講座5回 83人 ・産業まつり 啓発物品200部配布 ・地域安全フェスタ参加	・ふれあい講座5回 74人 ・8月 SCつるまつり 発表 ・産業まつり 啓発物品200部配布 ・地域安全フェスタ参加	・ふれあい講座4回42人 ・産業まつり啓発物品 100部配布 ・地域安全フェスタ 啓発物品100部配布
アウトカム（成果指標）	**意識・知識（短期）** （犯罪の状況を知っている人） アンケート調査（対策委員会）	—	—	—	（ふ）講座アンケート合計 （n=30） 知っている人23.3%	（ふ）講座アンケート合計 （n=60） 知っている人 22.0%	—
	態度・行動（中期） （防犯対策を行っている人の割合）（自治会防犯カメラの設置実績） 市民意識調査（アンケート）	市民意識調査 76.5% (587/767)	防犯カメラ1台	市民意識調査 (n=702) 88.6%(622/702) 防犯カメラ2台	（ふ）講座アンケート (n=30) 83.3%(25/30) 防犯カメラ2台	（ふ）講座アンケート (n=60) 80%(40/60) 防犯カメラ2台	市民意識調査 (n=930) 96.6%（899/930） 防犯カメラ9台
	状況（長期） （刑法犯認知件数、体感治安） 警察統計、意識調査（アンケート）	認知件数 121件 空き巣・忍び込み 8件 万引き 15件 自転車盗 15件 市民意識調査(n=467) 【不安に思っている人】 空き巣・忍び込み 81.8% 自転車盗 12%	認知件数 66件 空き巣・忍び込み 9件 万引き 14件 自転車盗 5件	認知件数 64件 空き巣・忍び込み 2件 万引き 16件 自転車盗 12件 市民意識調査(n=601) 【不安に思っている人】 空き巣・忍び込み 75.9% 自転車盗 13.5%	認知件数 78件 空き巣・忍び込み 5件 万引き 16件 自転車盗 14件	認知件数72件 空き巣・忍び込み 0件 万引き12件 自転車盗13件	認知件数68件 空き巣・忍び込み6件 万引き4件 自転車盗13件 市民意識調査(n=906) 【不安に思っている人】 空き巣・忍び込み 76.9% 自転車盗 9.5%

プログラム② 学生の見守り強化（大学生を孤立させない支援活動）

課題	不審者から身を守るための行動・知識を身につける	
目標	刑法犯認知件数の減少、犯罪に対する体感治安の向上及び不審者情報の減少	
内容等	・大学生への見守り活動　　・学生が不安に思っていることの聞き取り ・大学生と地域を繋ぐコミュニティの形成	
	【対象】	大学生
	【人材】	山梨県警察、青色防犯パトロール、都留文科大学など
区分	指標【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	見守り活動を知っている人の割合	・アンケート
（中期） 態度や行動の変化	大学生自身が防犯対策を行っている人の割合	・アンケート
（長期） 状態や状況の変化	・刑法犯認知件数 ・犯罪に対する体感治安 ・不審者情報	・山梨県警察犯罪統計 ・安全・安心なまちづくりアンケート ・都留市教育委員会不審者情報 ・都留文科大学不審者情報

プログラム②活動内容

■コミュニティカフェ

都留文科大学施設内に学生と対話できるブースを設け、学生の悩みを聞き、関係機関に繋げたり、防犯対策に関する啓発活動を行っている。

●コミュニティカフェの様子●



●警察と防災・減災対策委員会とのコラボの様子2023●



■地域清掃活動

NEW!

都留文科大学周辺の清掃活動を実施。地域の目があることを学生に知ってもらえるよう、パトロールを兼ねて実施している。

●地域清掃活動の様子2025●



●解散後啓発物品を配布●



プログラム②の評価

	年	2018 (SC開始)	2021 認証	2022	2023	2024	2025
アウトプット(活動指標)	**活動の実施回数** **啓発物品等の配布数**	—	・聞き取り調査 約90名	・コミュニティカフェ 実施	・コミュニティカフェ 実施(6月・11月) 聞き取り学生数:7名 ・青色防犯パトロール 対応件数:10件	・コミュニティカフェ 実施(6月・11月) 聞き取り学生数:25名 ・青色防犯パトロール 対応件数:8件	・コミュニティカフェ 実施(6月) 聞き取り学生数:16名 ・ごみ拾い活動(ボラひろ散歩)共催 ・青色防犯パトロール 対応件数:6件
アウトカム(成果指標)	**意識・知識(短期)** (見守り活動の認知度) 調査(対策委員会)	—	—	—	—	大学でのアンケート (n=25) 12%(3/25)	大学での防犯アンケート (n=100) 25% (25/100)
	態度・行動(中期) (防犯対策を行っている大学生) 調査(対策委員会)	—	—	—	—	大学でのアンケート (n=25) 92% (23/25)	大学での防犯アンケート (n=100) 100% (100/100)
	状況(行動) (刑法犯認知件数、体感治安) 警察統計、意識調査	空き巣・忍び込み 8件 自転車盗 15件 不審者情報 13件 意識調査(n=767) 【不安に思っている人】 40.0%(307/767)	空き巣・忍び込み 9件 自転車盗 5件 不審者情報 4件	空き巣・忍び込み 2件 自転車盗 12件 不審者情報16件 意識調査(n=702) 【不安に思っている人】 20.0%(141/702)	空き巣・忍び込み5件 自転車盗 15件 不審者情報 8件	空き巣・忍び込み0件 自転車盗 13件 不審者情報14件	空き巣・忍び込み6件 自転車盗 13件 不審者情報12件 意識調査(n=930) 【不安に思っている人】 24.0%(223/930)

プログラム③　「健康・安全・郷育プログラム」の拡充

課題	不審者から身を守るための行動・知識を身につける		
目標	不審者情報の減少、体感治安の向上		
内容等	「健康・安全・郷育プログラム」の提供		
	【対象】	小学生、未就学児（子どもたちの保護者も対象）	
	【人材】	リズムオブラブ、山梨県警察、都留市など	
区分	指標【方向性】		測定方法
（短期） 認識や知識の変化	プログラムを受けた人の 定着度・内容理解		・対策委員会でのアンケート
（中期） 態度や行動の変化	プログラムで学んだ 防犯対策の実施状況		・対策委員会でのアンケート
（長期） 状態や状況の変化	不審者情報 体感治安の向上		・都留市教育委員会不審者情報 ・都留文科大学不審者情報 ・アンケート

プログラム③活動内容

■「健康・安全・郷育プログラム」の拡充

市内の小学生以下の子どもたちに「いのちの大切さ」と「いのちを守る方法」を伝えるプログラム

●市内保育園小学校でのプログラムの様子●











保育園や小学校の親子行事として活動することが多く、保護者も一緒活動できるプログラムを提供している。

プログラム③の評価

	年	2018 (SC開始)	2021 認証	2022	2023	2024	2025
アウトプット(活動指標)	**活動の実施回数** **啓発物品等の配布数**	・小学校2校 (1学年ずつ)	・小学校2校 47名	・小学校4校 80名程度	・小学校4校 合計:150名程度 (保護者含む) ・保育所・幼稚園 2回 53名 ・青色防犯パトロール 対応件数:10件	・小学校2校 合計:54名 (保護者含む) ・田原交流センターnicot 親子4名 ・青色防犯パトロール 対応件数: 8件	・小学校3校、保育所1カ所　合計:198人(保護者含む) ・青色防犯パトロール 対応件数: 6件
アウトカム(成果指標)	**意識・知識(短期)** (プログラムを受けた人の意識の定着度・内容理解) 調査(対策委員会)	—	—	—	—	アンケート(n=13) 46%(6/13)	アンケート(n=113) 95.8%(108/113)
	態度・行動(中期) (プログラムで学んだ防犯対策の実施状況) 調査(対策委員会)	—	—	—	—	—	実施している(n=99) 75.5%(74/99) ※実施後半年から1年で調査
	状況(長期) (不審者情報通報件数) 不審者情報	不審者情報 13件	不審者情報 4件	不審者情報 16件	不審者情報8件	不審者情報14件	不審者情報12件

プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上

課題	詐欺被害に関する防犯意識の向上		
目標	詐欺対策を行っている市民の増加及び詐欺被害、アポ電件数の減少		
内容等	・電話詐欺防止等の消費生活に関する継続的な啓発活動の実施 ・財産の喪失だけでなくメンタルへのリスクを重要視		
	【対象】	高齢者（地域住民）	
	【人材】	山梨県警察、リズムオブラブ、都留市消費生活相談員、都留市など	
区分	指標【方向性】		測定方法
（短期） 認識や知識の変化	・詐欺対策が必要と認識している人の割合		・出前講座でのアンケート
（中期） 態度や行動の変化	・対策機器補助金申請者数 ・詐欺対策を行っている人の割合		・補助金申請件数 ・イベントでのアンケート調査
（長期） 状態や状況の変化	・詐欺被害件数 ・アポ電発生件数		・山梨県警察犯罪統計

プログラム④活動内容

■電話詐欺防止など消費生活の安全向上

市内の高齢者を中心に詐欺被害防止のための出前講座を行っている。また、市民課で取り扱っている「都留市特殊詐欺被害防止機器補助金」周知活動も行っている。

●パネルを使った寸劇の様子●



●詐欺対策についての講座の様子●



●出前講座の様子（リズムオブラブによる）●



●都留市特殊詐欺被害防止機器補助金PRの様子●



プログラム④の評価

年		2018 (SC開始)	2021 認証	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	・出前講座5回 145人	・出前講座2回 29人 ・啓発活動 物品100セット チラシ700部	・出前講座1回 16人 ・啓発活動 チラシ400部	・ふれあい講座5回 83人 ・産業まつり チラシ200部	・ふれあい講座5回 74名 ・SCつるまつり発表 ・産業まつり チラシ200部 ・電話詐欺防止機器 設置補助金PR活動 1回	・ふれあい講座5回 61人 ・産業まつり啓発物品 100部配布 ・地域安全フェスタ 啓発物品100部配布
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） （詐欺対策が必要と認識している人の割合） 意識調査（アンケート）			意識調査（n=143） 86%（123/143）		アンケート（n=81） 100%（81/81）	アンケート（n=107） 100%（107/107）
	態度・行動（中期） （対策を行っている人の割合） 補助金申請者数 意識調査 アンケート調査（対策委員会）		補助金申請件数 49件	補助金申請件数 39件 意識調査（n=589） 「対策を行っている人」 75.7%（446/589）	補助金申請件数 37件 アンケート（n=99） 「対策器機設置率」 25.3%（25/99）	補助金申請件数 37件 アンケート（n=81） 「対策を行っている人」81%（66/81）	補助金申請件数 33件 意識調査（n=899） 「対策を行っている人」 80.1%（726/899））
	状況（長期） （刑法犯認知件数、アポ電件数、体感治安） 警察統計、意識調査（アンケート）	詐欺被害 1件 アポ電 8件 意識調査（n=467） 61.5%（287/467）	詐欺被害 2件 アポ電 25件	詐欺被害 1件 アポ電 21件 意識調査（n=601） 詐欺に対する不安がある 45.4%（273/601）	詐欺被害 6件 アポ電 30件	詐欺被害 6件 アポ電 61件	詐欺被害 0件 アポ電 件（確認中） 意識調査（n=901） 詐欺に対する不安がある人61.5%（554/90

取り組みの成果①

項目	2013~2018年 合計	2019~2025年 合計	成果	参照
窃盗被害等にあわないための防犯意識の向上 プログラム①	窃盗犯の発生792件	399件	50%減少	図表2
	防犯対策を行っている人の割合 76.5% (平均)	92.6%	増加	27ページより
不審者から身を守るための行動・知識を身につけるプログラム②③	不審者情報13件 (平均)	不審者情報15件 (平均)	不審者に対する体感治安を測るため、新しい指標を検討中	
詐欺被害に関する防犯意識の向上 プログラム④	詐欺被害22件	詐欺被害19件	3件減少 2025年は詐欺被害ゼロ!	—

取り組みの成果②

2024年度　安全・安心なまちづくり表彰受賞について

・この表彰は、県民の一人ひとりの防犯意識の高揚や防犯環境づくりの活動等を行い、その活動が広く他の模範となるとして、各市町村等から推薦された団体及び事業者の方々に贈られる、山梨県知事表彰

受賞団体(他3団体)の代表として委員長が登壇しました。



市長への表敬訪問時の記念撮影



現在の課題

1.非侵入窃盗(主に万引き、自転車盗)減少割合が低い

→万引き、自転車盗防止の啓発対象を分析し、啓発の仕方を検討する。

2.年によって差はあるが、不審者情報が減少しない。

→同じ方が何度も通報されている可能性もあるため、できるだけ特定し、カウントの仕方を見直すこと。不審者情報そのものが減少することは難しいかもしれないので、通報に迅速に対応していく。

3.プログラムを再編したため、各プログラムデータが不足している。
→評価の指標が定まったため、データ収集を継続し、柔軟な対応をしていく。

データの収集・分析、リスクアセスメント

2025年度外傷サーベイランス委員会安全診断の結果とそれに対する対応

安全診断の結果（外傷サーベイランス委員会の評価）	対策委員会での対応
【データ分析】 不審者情報は教育委員会から寄せられる情報の件数のみでカウントしており、横ばいの状況が続いているが、同一人物が何度も報告されていることもあるので、可能な限り特定してカウントの方法を変えてみたらどうか。	地域防犯推進委員の協力を得て、できるだけ同一人物を特定する。（件数減少は目標の一つ、情報に速やかに対応することも目標としている）
【活動について】 都留文科大学で実施するコミュニティカフェについて、他の対策委員会の活動も一緒に開催したらどうか。	心の健康対策委員会と合同開催を検討する。
【データ収集】 詐欺に関するデータについて、市民課で実施している「電話詐欺防止機器補助金申請件数」を提示しているが、件数が高止まりしている可能性があるため、これに代わるデータを収集できないか。（例えば、固定電話を外した人の人数や防止機器を実際設置している人の人数など）	市民アンケートを実施する際に固定電話を外した方、防止機器を設置している方の調査もあわせて実施する。

2025年事前指導の評価と対策委員会の対応

2025年事前指導の評価	対策委員会での対応
【詐欺対策の活動について】 最も工夫と継続が必要となる取組である。詐欺の動向、最新情報を収集しつつ、ハイリスク対象にわかりやすく詐欺対策のポイントを伝えてもらいたい。	警察や都留市消費生活相談員から情報提供を受け、啓発活動に反映する。ふれあい講座では、都留市で起きた詐欺被害の手口を話したり、どの地区で起きたのかなど、伝えられる範囲でお伝えし、自分事として考えてもらえるよう、わかりやすい説明を行うようにした。また、講座内で行う寸劇についても、内容を改め、実施した。 最近は若年層への被害も増加してきているため、ハイリスク対象に若年層を加え、活動を実施する予定。
【自転車盗対策の活動について】 どんな自転車が狙われるのか、どう盗まれるのか情報を収集し、それに対応した活動を検討してみたらどうか。	自転車盗被害について、2019年から2025年をみると、「施錠あり」が30件、「施錠なし」が59件と、施錠していない自転車が狙われている。 啓発活動では、「鍵かけの徹底、備え付けのリング錠にワイヤー錠やU字ロックで二重ロックにする」などの対策を伝えながら、チラシとワイヤー錠を配布するようにしている。 また、警察から発生した場所と時間帯を提供していただき、青色防犯パトロールカーでその場所を重点的に回るよう対応する予定。

今後の取り組み

2021年（認証）	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年（再認証）

プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進

【継続】 出前講座での啓発やイベント等での啓発物品の配布、防犯カメラの設置促進

【検討】 万引き・自転車盗の啓発の方法検討

プログラム② 学生の見守り強化（大学生を孤立させない支援活動）

【継続】 コミュニティカフェでの学生の相談窓口や防犯対策の周知・啓発

【検討】 啓発ステッカーの配布（不審者対策）

プログラム③ 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充

【継続】 健康・安全・郷育プログラムの提供

【検討】 啓発ステッカーの配布（不審者対策）
データ収集の方法

【拡大】 高齢者・保育園・幼稚園にもプログラム拡大

プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上

【継続】 出前講座、イベント等での啓発物品の配布、電話詐欺防止機器の補助金周知



ご清聴
ありがとうございました。

都留市セーフコミュニティ
防犯対策委員会　一同